

科目名称	医療福祉論
授業コード	BL350
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	中里 哲也, 和泉 亮
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	医療福祉を担うソーシャルワーカーの実践力や多職種連携による患者支援・社会資源の活用を学ぶ。また医療ソーシャルワーク業務指針を通して医療ソーシャルワーカーの社会的役割を学ぶ。さらに医療ニーズが高い人の生活困難を解決するための様々な法・制度を学ぶ。また社会情勢等から引き起こされる貧困などの社会課題と医療福祉がどのように関連するのかを検討し、人権を尊重した医療福祉支援の在り方や解決策について考察する。テキスト等を使用して保健医療サービス全般の基本的知識を押さえ、ビデオ映像及び現場の医療ソーシャルワーカーをゲストスピーカーとして招き、現場実践の実際と課題、そして支援・連携等について学習を深める。
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関（2次救急病院及び有床診療所）での勤務及び実践したソーシャルワーク経験をもとに、実践に必要な知識・技術・価値・態度等を教授する。 ・保健医療分野におけるソーシャルワーク実習指導経験及び実習指導者養成認定研修講師の経験を踏まえ、将来医療ソーシャルワーカーを目指す際に学習すべき内容を網羅し、学生自身がMSWの将来を見据えて行動できる様サポートする ・保健医療分野の現役ソーシャルワーカーとのつながりを通して、必要に応じて現場の医療ソーシャルワーカーの方々と交流できる機会を持ち、医療ソーシャルワーカーのイメージづくりを具体的なものにする。
到達目標	<p>ディプロマポリシーの「社会福祉に関する基本的な知識や技術を修得している」「広い視野をもって福祉的課題を見つけることができ、探求することができる」「他者と協力して社会的活動に参画することができる」「変化する社会情勢に対応していける総合的な学びを身につけている」の実現に向けて、保健医療分野における相談援助の意義・目的を理解し、医療ソーシャルワーク実践をする為の基礎知識の獲得を目指す。</p> <p>本科目の到達目標は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉を担うソーシャルワーカーの実践力や多職種連携による患者支援・社会資源の活用についてその専門性を説明できる。 ・保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活困難や生活困難に陥る要因、背景にある環境を理解し説明できる。 ・医療ソーシャルワーカー倫理綱領及び業務指針を理解し、保健医療サービスを活用できるよう実践との関連について説明できる。
計画・内容	<p>第1回 オリエンテーション、授業概要と授業の進め方 予習 保健医療分野におけるソーシャルワークについて学習したい内容を整理する。1時間 復習 保健医療分野にソーシャルワーカーが関わる意義について考察する。1時間30分</p> <p>第2回 医療ソーシャルワーク専門職の価値と倫理 倫理綱領の理解 予習 医療ソーシャルワーカーの倫理綱領を良く読み、要点をまとめてくる。1時間 復習 予習でまとめたものを再確認し、授業での気づき及び学びを整理する。1時間30分</p> <p>第3回 医療ソーシャルワーク専門職の価値と倫理 業務指針の理解 予習 医療ソーシャルワーカーの業務指針を良く読み、要点をまとめてくる。1時間 復習 予習でまとめたものを再確認し、授業での気づき及び学びを整理する。1時間30分</p> <p>第4回 保健医療サービスの理解 保健医療分野におけるソーシャルワーカーの意義・目的</p>

計画・内容	<p>予習 医療ソーシャルワーカーの業務について調査しまとめる。1時間 復習 保健医療機関の特性とソーシャルワークの関連性についてまとめる。1時間30分 第5回 保健医療サービスの理解 保健医療サービスの概要 予習 保健医療サービス体系について調査しまとめる。1時間 復習 保健医療サービス概要の要点をまとめる。1時間30分 第6回 保健医療サービスの理解 保健医療サービスの特徴と課題 予習 保健医療サービスの特徴と課題について調査しまとめる。1時間 復習 保健医療サービスの特徴と課題について授業の内容を元に自分の言葉でまとめる。1時間30分 第7回 保険医療サービスの理解 地域社会における保健医療サービスの位置づけ 予習 地域社会における保健医療サービスの位置づけについて考えをまとめる。1時間 復習 地域社会における保健医療サービスの重要性とその課題について要点をまとめる。1時間30分 第8回 保健医療サービスの理解 地域に根差した保健医療サービスとする為の社会福祉専門職の役割（外部 / 非常勤講師予定） 予習 社会福祉専門職の活動領域（マイクロ・メゾ・マクロ）から考える保健医療サービスを考える。1時間 復習 保健医療サービス提供における社会福祉専門職の役割についてまとめる。1時間30分 第9回 疾病を抱えた人の理解 疾病を抱えることの意味 予習 疾病が引き起こす当事者への変化について考察しまとめる。1時間 復習 疾病を抱えることの意味について自分の言葉で理解を整理する。1時間30分 第10回 疾病を抱えた人の理解 疾病により抱える心理社会的課題の理解 予習 疾病が引き起こす周囲の環境への変化について考察しまとめる。1時間 復習 疾病により抱える心理社会的課題を自分の言葉で理解を整理する。1時間30分 第11回 疾病を抱えた人の理解 心理社会的課題の解決に向けた取り組み 予習 疾病を抱えた人の心理社会的課題を解決する手立てについて、書籍・論文等を調査する。1時間 復習 心理社会的課題の解決について学んだこと、気づいたことを整理しまとめる。1時間30分 第12回 医療機関別実践・在宅医療診療所における医療ソーシャルワークの実際を学ぶ 予習 在宅医療におけるソーシャルワーク実践について書籍・論文等を調査する。1時間 復習 支援の実際について学んだこと、気づいたことを整理しまとめる。1時間30分 第13回 医療機関別実践・総合病院における医療ソーシャルワークの実際を学ぶ 予習 総合病院におけるソーシャルワーク実践について書籍・論文等を調査する。1時間 復習 支援の実際について学んだこと、気づいたことを整理しまとめる。1時間30分 第14回 当事者から学ぶ 予習 当事者目線で書かれた書籍・論文等を調査する。1時間 復習 当事者視点で考えることの重要性について気づいたこと、学んだことを整理しまとめる。1時間30分 第15回 まとめと発表 予習 14回までの授業を振り返り、学んだこと / 気づいたことを整理する。1時間 復習 全15回の授業内容を再度復習する。1時間30分</p>
授業の進め方	<p>学生の理解 / 主体的参加環境づくりを一番に考え、「講義」「ワーク（個別・グループ）」「対話」を中心とした取り組みを中心とした授業を展開する。また、視聴覚教材やロールプレイなども積極的に活用していく。 予習・復習は、授業進行に伴いその都度提示する。主にワークシート、新聞記事・専門書等の読解・授業内容の理解度を確認するための学習をすすめる。予習に1時間・復習に1時間半程度を要する。</p>
能動的な学びの実施	<p>アクティブラーニングにて教授する。 各回ごとの授業で“何を学ぶのか”“それを学ぶことでどんな良いことがあるのか”をまとめた後、授業を展開。 授業中に学生への質問を行い、学生自身自分の関心を深め、課題を解決する問題解決学習、発見学習など重視する。また、グループディスカッションやワークシート作成、発表、ゲストの招聘とディスカッションなどの方法も用いて効果的に学習が進められるようにする。 さらに、日頃からボランティア活動等に参加することでより学習効果が高められる為、主体的に多くの活動に参加することが望ましい。</p>
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・「疾病の理解」及び「疾病を抱えた人の理解」を基本軸とし、医療ソーシャルワーカーの業務指針にある、受診受療援助、チーム医療のマネジメント、退院後の在宅医療に向けた退院支援等、患者の手記や医療ソーシャルワーカーの実践事例集、関係新聞記事を読み様々な支援方策の在り方を理解する。 ・必ず事前・事後学習を行い、理解を深めること。 ・関係法規の理解、医療事典などから「疾病を抱えた人」の心身の状態や想定できる支援をノートに自分自身の言葉でまとめると学習効果が高い。

教科書・参考書	<p>教科書 地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト 改訂版 医療福祉総合ガイドブック 2024年度版 相談援助職の記録の書き方</p> <p>参考書：「保健医療ソーシャルワーク アドバンス実践のために」「ピターエンドロール」</p>
成績評価方法と基準	<p>評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度による。 平常点（課題の提出などを含む）（40％）、レポート（60％）を総合して評定する。 その他、学生による自主的なレポート等の提出も加点の対象とし、遅刻、欠席等は、学内の規定に基づき、成績評価する。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業進度に応じて、適宜フィードバックを実施。 課題についてのフィードバックは 授業にて返却、 メール及び教育支援システム等を用いて受講学生と相談しつつ実施する。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>
留意事項	<p>事前に、社会福祉、相談援助に関連する科目を履修し、社会福祉、相談援助に関する知識を文献等で触れておくことが望ましい。</p>
非対面授業となった場合の「 授業の進め方 」および「 成績評価方法と基準 」	<p>授業の進め方 ZOOMを用い、時間割通りの時間帯に、オンライン授業を実施する。 ZOOMのURLや授業資料等はCampusSquareに掲示し配信します。授業ではYouTube・Googleを使用することもある。PDFファイル・Word ファイル・PowerPointファイルを使用して行うので、これらに対応した端末及びインターネット環境の準備が必要である。質疑応答は メールやZOOMチャット等を使用して行う。</p> <p>成績評価方法と基準 平常点（課題の提出などを含む）（40％）、レポート（60％）を総合して評定する</p>